

鳥獣害に強い地域づくりを目指して

～地域が一丸となって鳥獣害対策をしましょう～

近年イノシシによる農作物被害が多く、住宅街でも「イノシシを目撃した」との情報があります。

イノシシは、基本的に日中活動する動物ですが、人里近くでは人間を避けるため夜間に活動します。きわめて警戒心が強く臆病な反面、安全な場所だと判断すると大胆な行動になります。

最も特徴的な「鼻」は犬並の臭覚をもち、鼻で地面を掘り起こし「植物の根」や「茎」、「ミミズ」などを食べています。また、体温調節や寄生虫を落とすための泥遊び(ヌタウチ)をし、特に秋収穫時前の水田が被害を受けやすく、あぜ道や土手、水田近隣などに草が繁茂していると、隠れ場となり、被害を受けやすくなります。

【被害地域周辺の環境整備】

イノシシは隠れ場としての雑草地(荒地)を好み、日中は身近な場所に潜んでいると言われるため、被害を受けないためには農地周辺の耕作放棄地や里山の整備が必要になります。

地域の荒地は、農業をやめてしまった方や土地所有者が不在など理由は様々ですが、農業者だけでなく地域が一丸となって考え、荒地を解消していくことが大切です。

【簡易防除柵や電気柵】

柵の設置方法については、「シカの防除対策について」で掲載したとおりですが、イノシシの場合は、地面を掘る修正があるので、地面との設置箇所に丸パイプや木材を置くなど、掘り起こされないように工夫することがポイントです。

【掘り起こされた耕作放棄地】

